

令和 5 年
9 月 28 日（木）



盛岡市地域福祉ワークショップだより【厨川版】（青山・東厨川・土淵・みたけ・北厨川）

NEWS LETTER

発行
地方創生いわて
事業協同組合
（委託元）
盛岡市地域福祉課

9/22(金) 第 2 回厨川圏域で開催

盛岡市では、9/22(金)に青山地区活動センターにおいて、第 2 回目となる「地域福祉ワークショップ（厨川圏域）」を開催しました。

このワークショップは、令和 7 年度を始期とする「第 3 期盛岡市地域福祉計画」の策定にあたり、今年度、市内各地区のみなさんから、「人と人とがつながり、共に支え合うまちづくり」を大きなテーマに、各地区での現在の取組と、将来への希望などのご意見をうかがうために開催しており、日常生活圏域に基づき 7 つに分けて行います。

第 1 回の玉山圏域に続き、ワークショップ当日の様子といただいた意見の概要について、お伝えいたします。

第 2 回の厨川圏域では、8 グループに分かれて、参加者 43 名が意見交換を行いました。

【当日のタイムスケジュール】

18:30	■ 開会 ・市地域福祉課長より挨拶と趣旨説明。  ▲齋藤課長より挨拶と趣旨説明 ・本日の進め方（グループごとの話し合い）について説明。
18:45	■ グループごとの話し合い 各グループには、参加者の話し合いのサポートをする進行役が 1 名入りました。進行役には、大学生も 6 名が参加しました。 ・グループごとに自己紹介 ・地域の交流、顔の見える関係づくり、安心して暮らせる地域づくりのために、今、地域で取り組んでいること、これから取り組みたいことなどについて話し合いました。  ▲模造紙に貼り出されたコメントを見ながら…
20:00	■ グループ発表 各グループで話し合ったことを発表し、参加者全員で確認しました。
20:30	■ 講評・閉会



▲会場風景



▲グループワークの様子

活発な地域活動とコミュニケーションによる関係づくり

厨川圏域のワークショップで話し合われた内容の一部をお伝えします。

現状と課題

地域における活動状況

- ・地域の活動は町内会活動が中心となっている。
- ・民生委員を中心に、シルバーメイトの活動を行っている。
- ・資源回収、清掃活動に取り組んでいる。
- ・地域では、老人クラブの活動が重要である。
- ・サロン活動を行っている。
- ・一人暮らし高齢者を対象に「ミニデイサービス」を開催。
- ・集会施設が整備されていない地区では、活動が思うように出来ない状況。
- ・個人情報の取扱いについて、厳しすぎる面がある。
- ・会報（町内会ニュース）を発行している。

活動拠点があることが大事

- ・集まれる場所（公民館、地区活動センターなど）が身近にあることが、活動のしやすさにつながっている。

役員の担い手不足

- ・役員のなり手がいないので、苦労している（一人で何役も抱えている）。
- ・若い人の参加が少ない。
- ・マンパワー不足である。
- ・背景に、少子化傾向による人口構成の変化がある。
- ・60 代が現役で働いていることも影響している。

生活の支援や見守り

- ・移動手段の確保が課題となっている。
- ・普段の生活を支える移動支援が必要である。
- ・買い物支援が必要である。
- ・独り暮らし高齢者の見守りが必要である。
- ・人によっては訪問を望んでいない場合もある。
- ・除雪など、高齢者は遠慮しがち。

公営住宅やマンション住民との交流機会

- ・マンションや公営住宅が多く、交流が少ない。

防災

- ・消防パトロールで、火災は 7 割減らせると感じている。

今後に向けて

担い手の確保

- ・活動をもっと可視化し、若い世代の参加を促す。
- ・働き盛りの 40 代、50 代が参加しやすいように、緩く活動を行う。
- ・ボランティアとしての取り組みへの転換を検討してはどうか。
- ・若い人との交流、世代間の交流で顔の見える関係づくりをめざす。
- ・町内会行事、とくに子ども中心に行事を進め、親子との交流を図る。
- ・町内会の役員に若い方が入っている地区では、強制しない関わり方をしている。
- ・町内会活動従事者の負担軽減に向けて、地域組織や町内会の行事、組織の棚卸しを行う。

生活を支える取り組み

- ・空き家の活用で、居場所づくり、交流の場を作る。
- ・身近に集える場所づくり。子どもの遊び場づくり。
- ・地域の状況に応じて、移動支援の取り組みが必要とされている。
- ・移動販売が必要（配達等の買い物支援を行っている店舗もある）。
- ・細い道路にも入る巡回バスが欲しい。
- ・災害時の助け合いも大事である。防災訓練の実施。
- ・地域企業との連携による取り組みをめざす。
- ・町内会に相談窓口、「お助け隊」などのような担当があればよい。

コミュニケーション

- ・近所の人を知ること、分かることの先に、関わりが生まれる。
- ・組織間、世代間など、様々な関係づくりを図る。
- ・一人ひとりの個性を尊重し、認め合える。
- ・近くに住む住民のコミュニケーションによって「近助」の関係をつくる。
- ・孤立しない関係づくりなどの核に町内会はなれるぞ！
- ・“あいさつ”が本質的に重要である。

情報の共有と様々な連携の強化

- ・地域を再認識する活動が大事。
- ・地域づくりと地域協働、情報を共有して連携できないか。
- ・個人の困りごとを共有できるまちづくり（発信しやすい環境）
- ・市役所や社会福祉協議会との連携強化を。

地域資源の活用

- ・青山で、町内まち歩きや青山フォトコンテストを開催してみたい。

アンケート結果より 参加した方々からの感想を紹介します。

- ・他の町内会行事の内容を聞いた事が良かった。
- ・町内会のあり方について、いろいろと考えさせられた。
- ・各町内の活動を聞きながら自分達の活動も頑張っていることを実感できた。
- ・町内でもっと交流してほしい。声をかけやすい町内にしたい。
- ・町内会長、自治会長のみならず、日頃一生懸命に活動をしている町内会、自治会のメンバーの話も聞きたい!!
- ・結果のまとめがあとで欲しい。

進行役からひとこと！印象に残ったこと

- ・全体発表で、他の班の内容をメモしている様子が見られ、当事者意識を持っていると感じた。
- ・“顔の見える関係性”というキーワードが、どの班からもでていたように感じた。この点は、地域住民の皆さんが、大きく不安に感じていることではないかと印象に残った。
- ・みなさん活発に意見を出してくださり、大変助かった。
- ・「人と人の繋がりに町内会が今後可能なこと・重要なこと」のアイデアや必要性が多く発言され、非常に前向きな意見が中心となった。